

府内救命救急センターを対象にしたアンケートについて

対象 熱傷で救命救急センターに入院となった患者

期間 2019年1月1日-2019年12月31日（1年間）

アンケート内容

1. 病院前・受傷機転情報

- (ア) 年齢
- (イ) 性別
- (ウ) 受傷地域
- (エ) 受傷場所：自宅内、自宅以外の屋内、屋外、その他
- (オ) 受傷原因：火焰、熱湯、接触、化学、電撃、その他
- (カ) 入院目的：急性期治療、機能再建、整容、その他
- (キ) 来院経路：直送、転院、独歩、その他
- (ク) 入院前ADL：歩行、食事

2. 初期評価情報

- (ア) 総熱傷面積
- (イ) III度熱傷面積
- (ウ) II度熱傷面積
- (エ) 手関節以遠の熱傷の有無
- (オ) 足関節以遠の熱傷の有無
- (カ) 膝、肘関節の熱傷の有無
- (キ) 気道損傷の有無（なお、それによる気管挿管の必要性の有無も）
- (ク) 陰部熱傷の有無
- (ケ) 肩関節の熱傷の有無

(コ) 骨折・軟部組織損傷の合併

3. 入院後情報

- (ア) 植皮手術回数
- (イ) 集中治療室滞在日数
- (ウ) 総入院日数
- (エ) 転帰
- (オ) 転退院時ADL：歩行、食事

府内救命救急センターを対象にしたアンケート結果

【アンケートについて】

- ・アンケート対象は熱傷で救命救急センターに入院となった患者【 期間 2019年1月1日-2019年12月31日（1年間）】
- ・16救命救急センターのうち、14救命救急センターからご回答いただいた。（回収率87.5%）
- ・概ね有効な回答結果ではあったが、一部回答内容が「不明」であるところがあった。（例：受傷前のADL等）

【資料中にある語句について】

%TBSA (Total Body Surface Area (全体表面積) の略)

受傷した面積が全体表面積に占める割合

BI (Burn Index (熱傷指数)の略)

Ⅲ度熱傷面積 + Ⅱ度熱傷面積 / 2

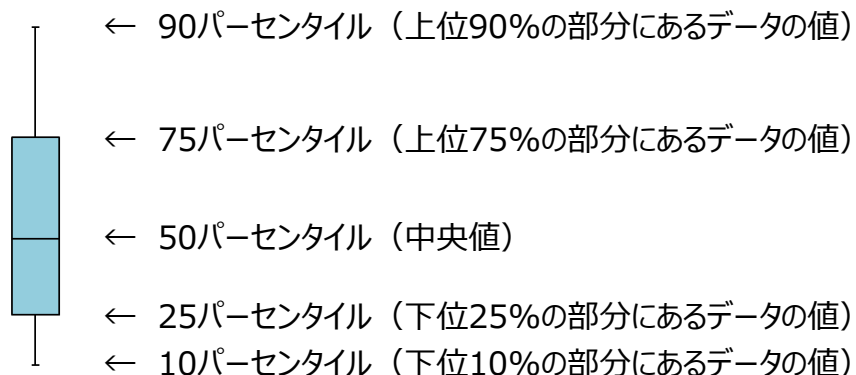
PBI (Prognostic Burn Index (予後熱傷指数) の略)

熱傷指数 + 年齢

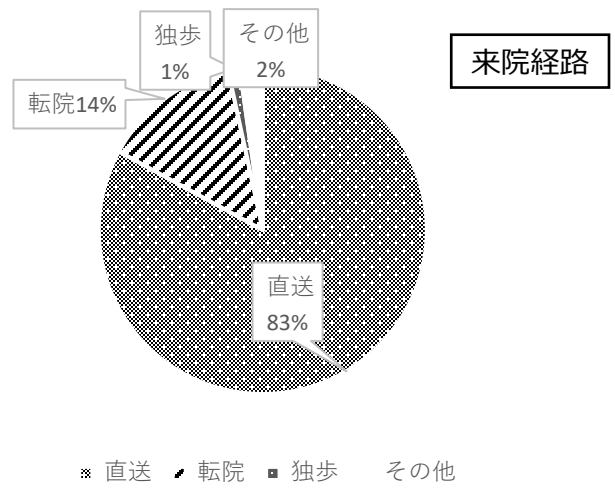
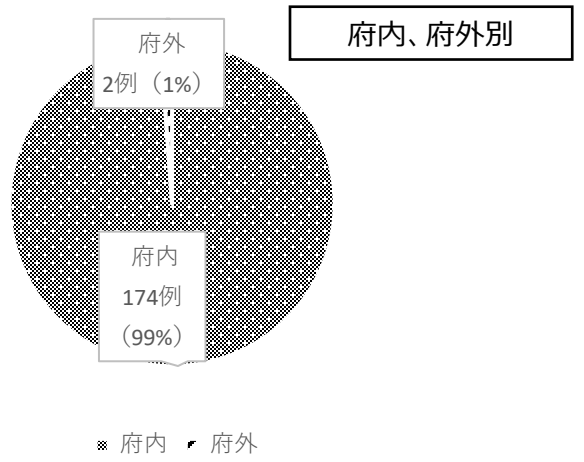
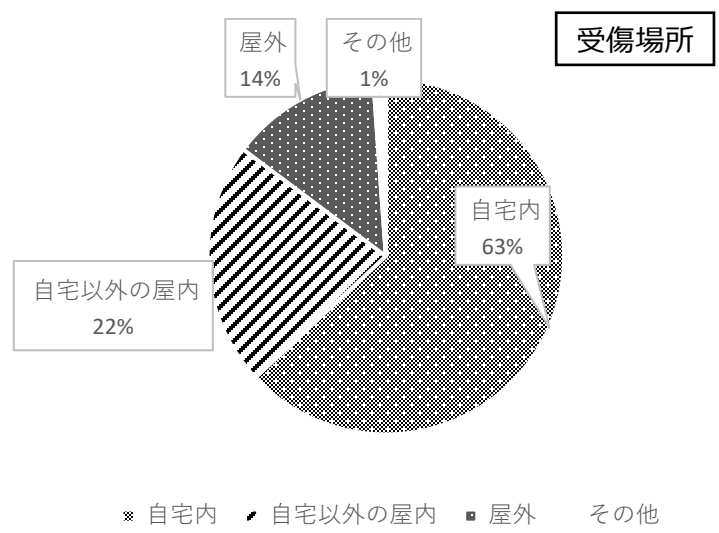
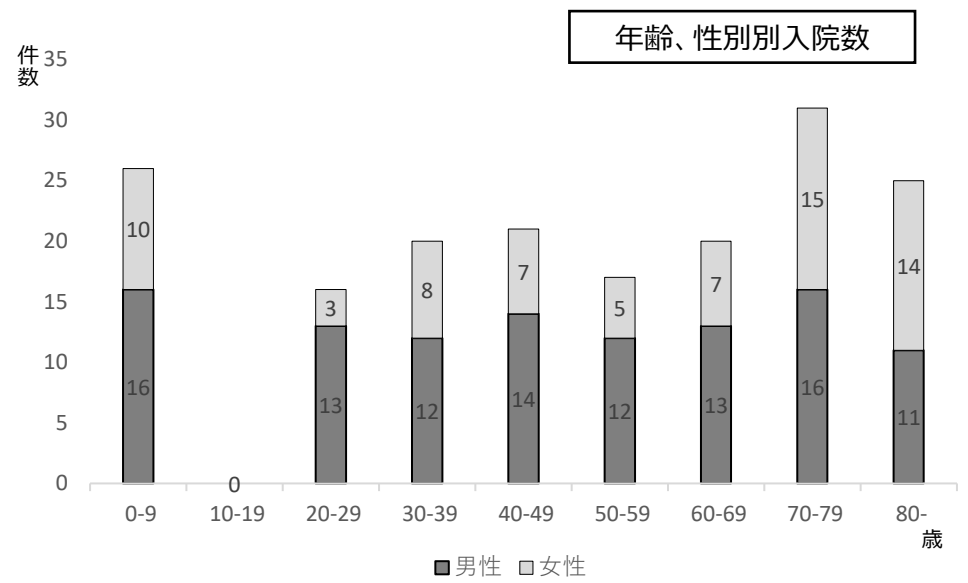
ADL (Activities of Daily Living (日常生活動作) の略)

【資料中にある箱ひげ図について】

今回は下記の通り定義する。



府内救命救急センターを対象にしたアンケート結果

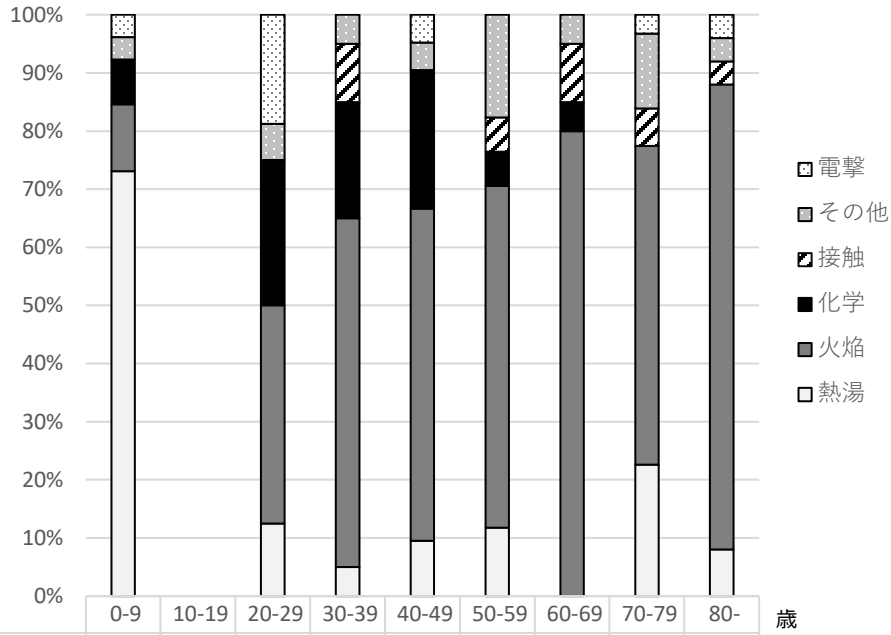


○総入院数は176例、年齢中央値52.5歳。
 ○総入院数のほとんどが府内での発生例であった。

○自宅内及び屋内が発生場所の多くを占める。
 ○来院経路は直送が83%、医療機関からの転院が14%を占める。

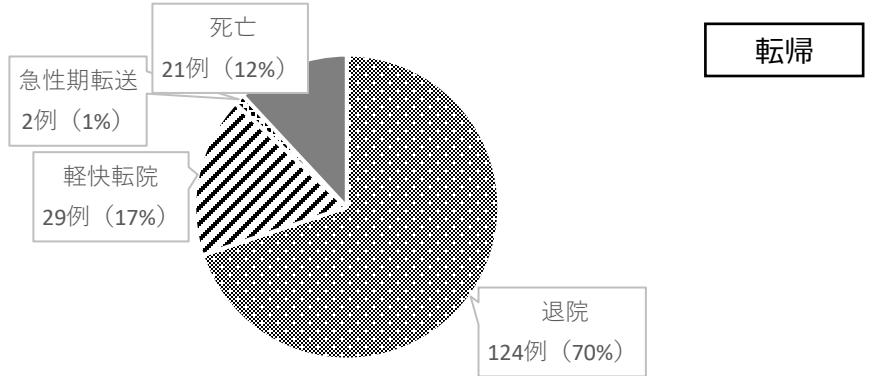
府内救命救急センターを対象にしたアンケート結果

年齢別受傷原因

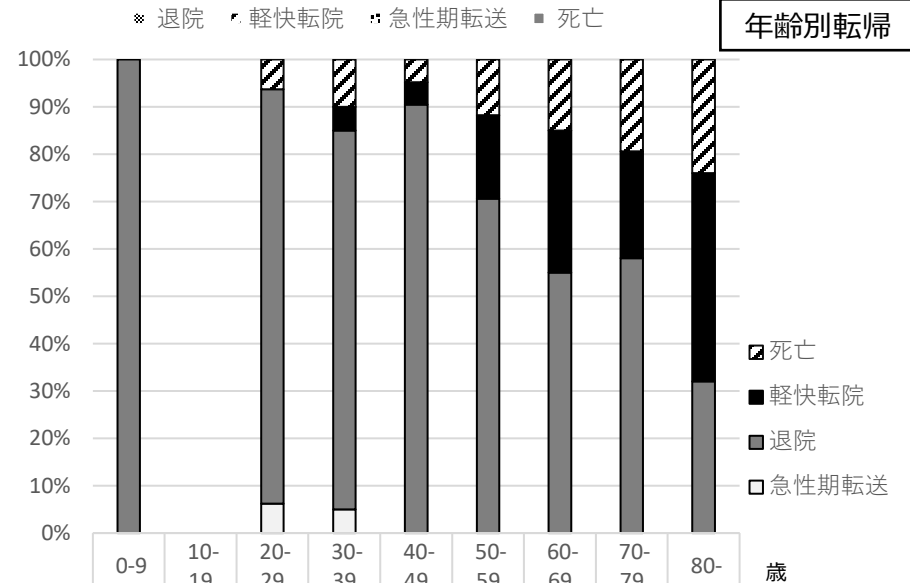


	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	歳
電撃	1	0	3	0	1	0	0	1	1	
その他	1	0	1	1	1	3	1	4	1	
接触	0	0	0	2	0	1	2	2	1	
化学	2	0	4	4	5	1	1	0	0	
火焰	3	0	6	12	12	10	16	17	20	
熱湯	19	0	2	1	2	2	0	7	2	

○小児は熱湯による受傷が多く、年齢が上昇すれば火焰による受傷件数が増加する。



転帰

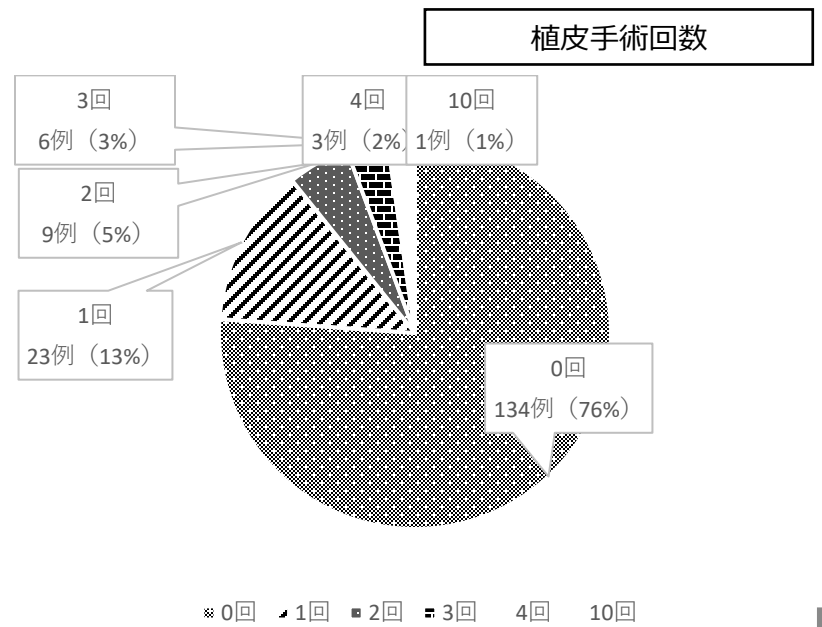
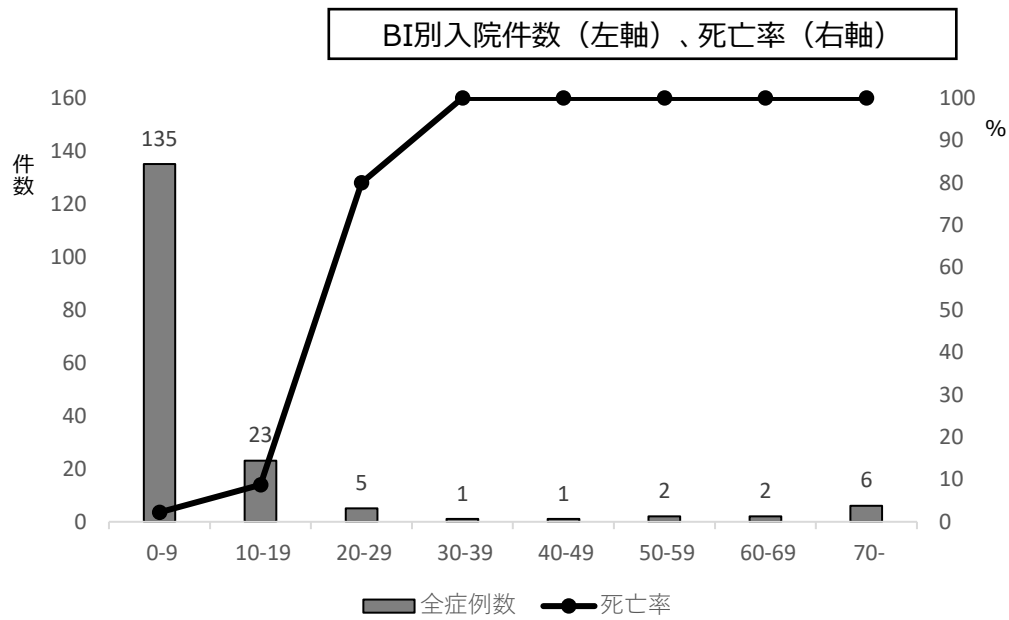
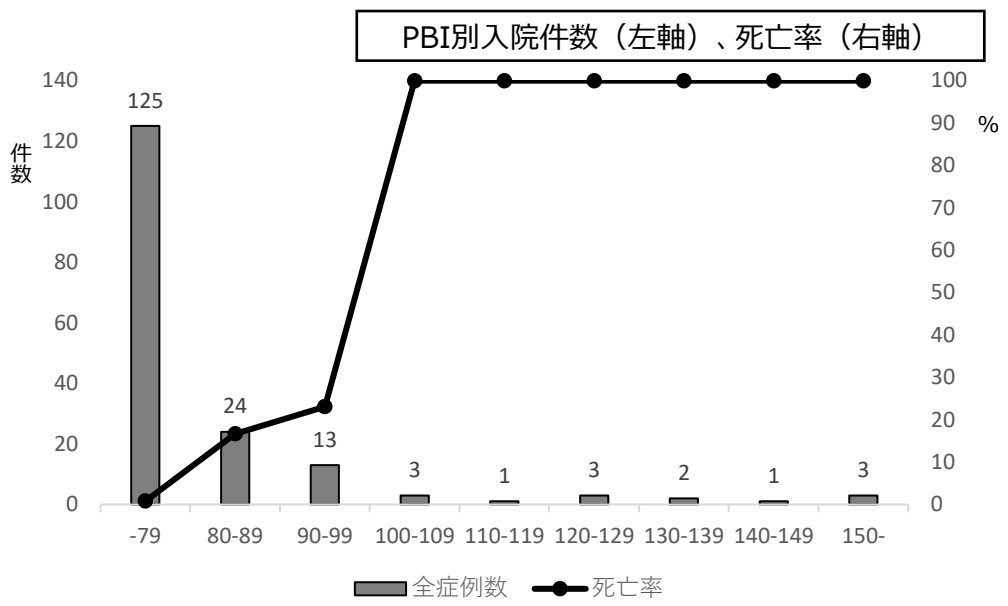
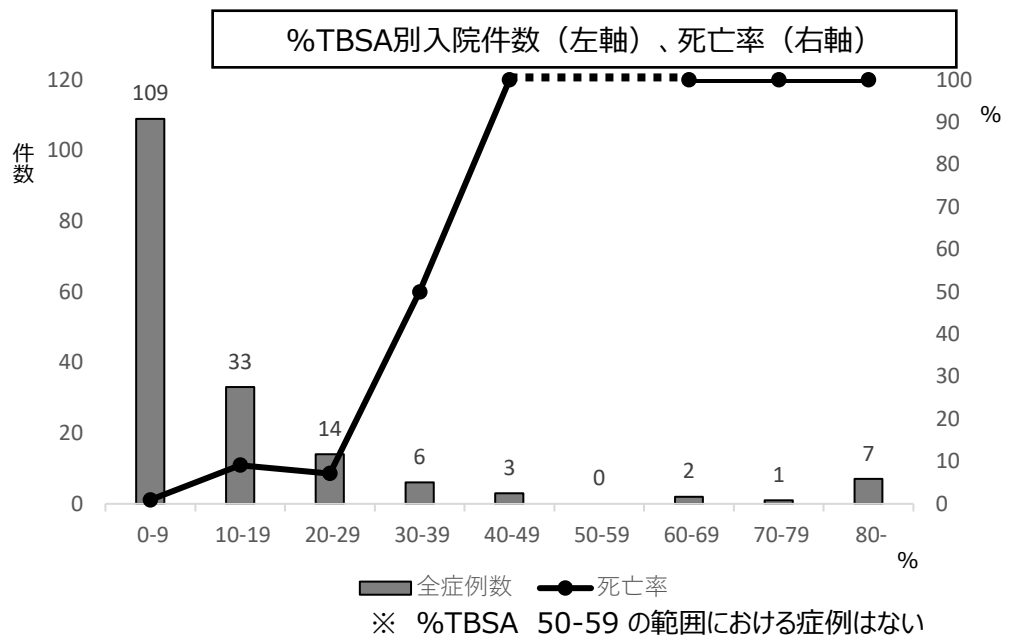


年齢別転帰

	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	歳
死亡	0	0	1	2	1	2	3	6	6	
軽快転院	0	0	0	1	1	3	6	7	11	
退院	26	0	14	16	19	12	11	18	8	
急性期転送	0	0	1	1	0	0	0	0	0	

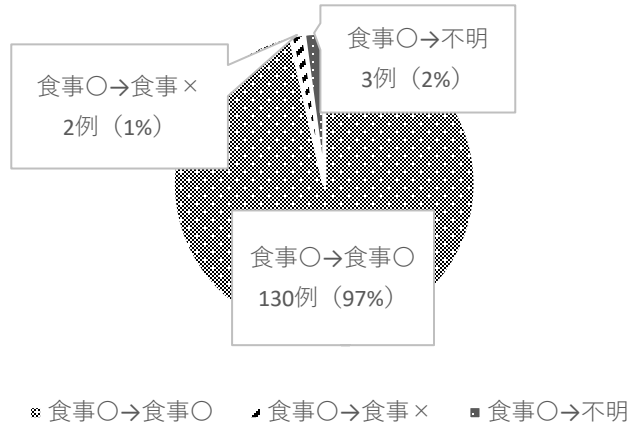
○死亡のうち24時間以内死亡7例、24時間以降14例。
○年齢上昇とともに死亡率は上昇する傾向にある。

府内救命救急センターを対象にしたアンケート結果



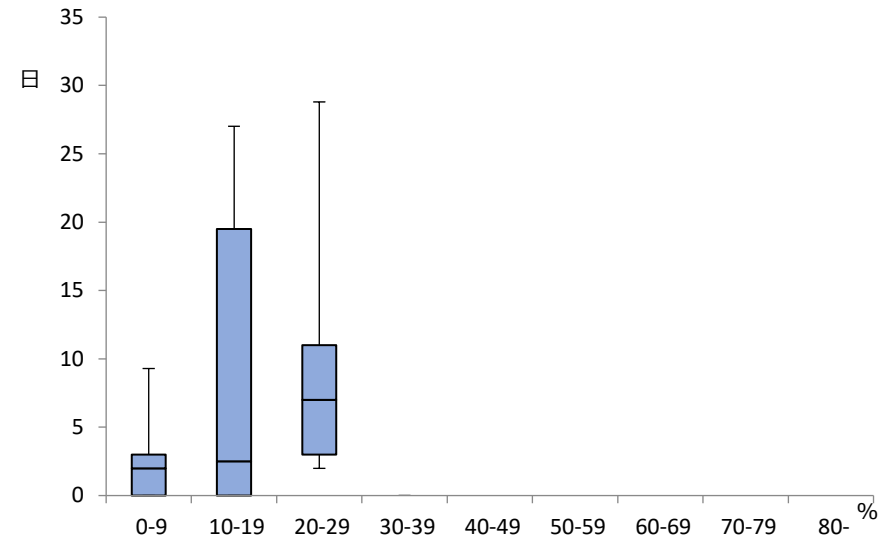
府内救命救急センターを対象にしたアンケート結果

ADLの変化（食事）

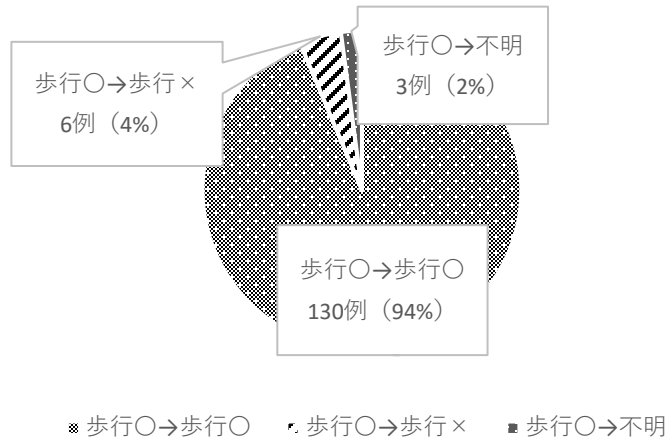


- 食事○→食事○の例で%TBSAが最大 72歳 女性 %TBSA 28.5%
- 食事○→食事×の例で%TBSAが最小 84歳 男性 %TBSA 14.125%

%TBSA別ICU滞在日数（生存例のみ）

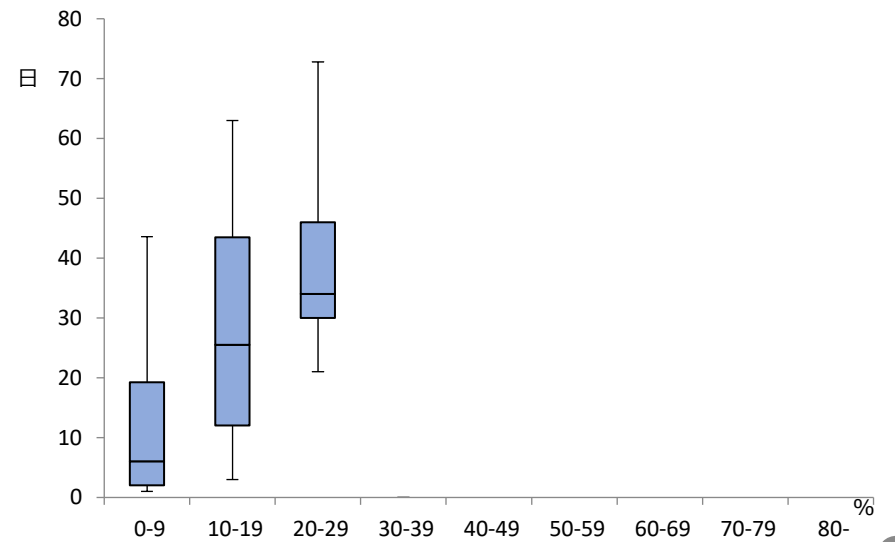


ADLの変化（歩行）



- 歩行○→歩行○の例で%TBSAが最大 73歳 男性 %TBSA 30%
- 歩行○→歩行×の例で%TBSAが最小 79歳 女性 %TBSA 1%

%TBSA別総入院日数（生存例のみ）



※上下のひげは90,10パーセンタイルを指す

府内救命救急センターを対象にしたアンケート結果

%TBSA別特殊熱傷患者数

%TBSA	特殊熱傷 手関節以遠の 熱傷 有	足関節以遠の 熱傷 有	膝・肘関節の 熱傷 有	肩関節の 熱傷 有	会陰部の 熱傷 有無	骨折・軟部組織 損傷の合併 有	気道損傷 有	気管挿管を要す る気道損傷 有
0-4	14	9	4	0	2	1	34	12
5-9	13	3	11	3	1	0	3	3
10-14	9	5	7	3	2	0	3	2
15-19	8	2	5	2	0	0	2	1
20-24	4	1	9	7	0	0	2	1
25-29	3	1	1	2	0	1	1	1
30-34	3	2	4	3	0	0	0	1
35-39	0	1	1	0	1	1	1	1
40-44	1	1	1	1	0	0	0	0
45-49	1	1	2	1	0	0	1	1
50-	8	8	7	8	8	3	9	8

Ⅲ度熱傷患者数および死亡数

%	全症例数	死亡数	死亡率
0-9	154	7	4.5%
10-	21	14	66.7%

アンケートの主な分析事項

- 大阪府内の救命救急センターに入院となった熱傷患者は176例（2019年）であり、ほとんどが府内での発生患者であった。
- %TBSA 30-39であれば死亡率50%、%TBSA 40以上であれば全例死亡であった。
- BI 20-29であれば死亡率80%、BI 30以上であれば全例死亡であった。
- Artzの定義にあるⅢ度熱傷10%以上であれば死亡率は67%程度であった。
- 植皮手術を必要としたのは、24%程度であった。
- 熱傷患者の死亡率は熱傷面積に比例し高くなっており、救命率向上及び予後の改善のためには、広範囲熱傷の患者の集約の必要性がある。
一方で、機能面での悪化は非常に少なく、機能面での改善を目的とした集約の必要性は見受けられなかった。